

株式会社トプコン

2023年3月期第3四半期 決算説明会

2023年1月30日

イベント概要

[企業名] 株式会社トプコン

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2023年3月期第3四半期 決算説明会

[決算期] 2023年3月期

[日程] 2023年1月30日

[時間] 15:30 -16:20

(合計:50分、登壇:20分、質疑応答:30分)

[開催方式] オンライン開催(ライブ配信)

[登壇者] 2名

取締役 常務執行役員 財務本部長 秋山 治彦

執行役員 広報・IR 室長 平山 貴昭

[目次

2023年3月期第3四半期 決算説明会

- I. 2023年3月期第3四半期 決算報告
- Ⅱ. 2023年3月期 通期見通し
- ш. トピックス
- IV. まとめ
- V. 参考資料



©2023 Topcon Corporation

Topcon for Juman Life >

本日はご視聴いただきありがとうございます。2023 年 3 月期第 3 四半期の決算説明会を開始いたします。第 3 四半期の決算報告、通期見通し、トピックス、まとめの順でご説明します。

I.2023年3月期第3四半期 決算報告

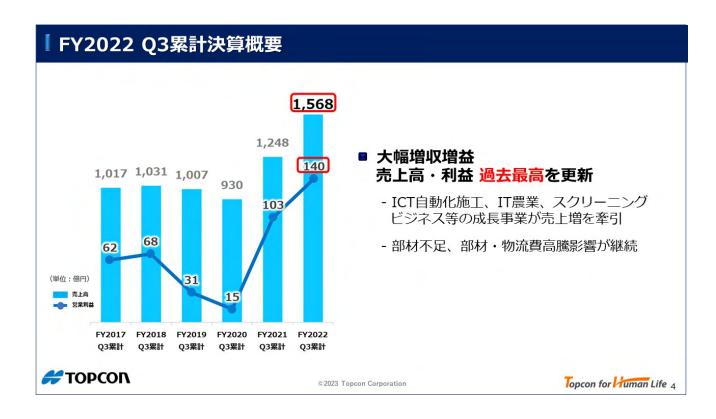
I-1. 2023年3月期第3四半期 決算報告

I-2. 事業別の状況



©2023 Topcon Corporation

Topcon for Juman Life 3



第3四半期の決算概要です。スライドの棒グラフは売上高、折れ線グラフは営業利益を示しています。グラフの右端をご覧のとおり、大幅な増収増益で、売上高・営業利益ともに第3四半期として 過去最高を更新しました。

ICT 自動化施工、IT 農業、スクリーニングビジネスなど、当社が今一番注力している成長事業が売上増を牽引しました。一方で部材不足や、部材・物流費高騰の影響は継続しています。

2019 年度、2020 年度は新型コロナウイルスの影響で落ち込んでいましたが、2021 年度、2022 年度は、コロナ禍前の 2017 年度、2018 年度と比べても売上高・利益ともにレベルアップしていることがお分かりいただけるかと思います。

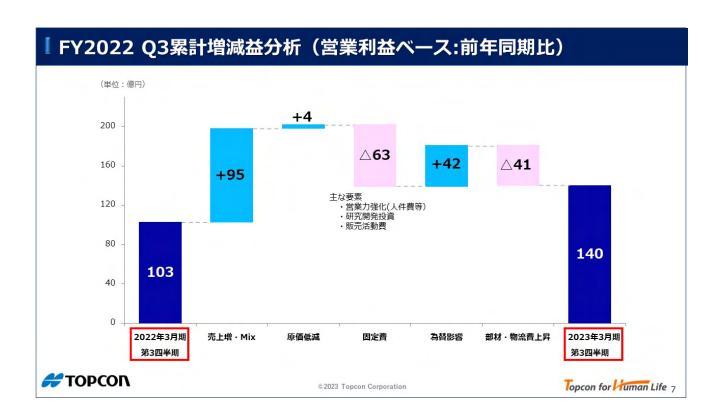
【 FY2022 Q3累計実績 ■売上高・利益 過去最高 (単位:百万円) FY2021 Q3累計実績 Q3累計実績 前年同期比 前年同期比% 売上高 124,834 156,790 +26% 31,955 17,506 売上総利益 63,959 81,465 (売上総利益率) (51.2%) (52.0%) 販管費 53,611 67,491 13,879 13,974 +35% 営業利益 10,347 3,626 (8.9%) (営業利益率) (8.3%)営業外損益 △1,101 △1,409 △307 3,318 経常利益 9,246 12,565 +36% 特別損益 292 △462 △754 税引前利益 9,538 12,103 2,564 四半期純利益 +37% 5,752 7,859 2,106 為 替 換算レート USD 111.38円 135.40円 24.02円 $\mathsf{E}\,\mathsf{U}\,\mathsf{R}$ 130.85円 140.42円 9.57円 (期中平均) **TOPCON** Topcon for Juman Life 5 © 2023 Topcon Corporation

P/L の詳細です。売上高は 1,567 億 9,000 万円で、前年同期比 319 億 5,500 万円増と、26 パーセントの増収となりました。売上総利益率は 52 パーセントで、前年同期から微増となっています。

営業利益は 139 億 7,400 万円で、前年同期比 36 億 2,600 万円増と、35 パーセントの増益となりました。経常利益、当期純利益も前年同期と比べて、ほぼ同等の 36 パーセントおよび 37 パーセントの増益という結果でした。

「FY2022 Q3累計事業別実績 ■ 全事業で増収 (単位:百万円) FY2021 Q3累計実績 Q3累計実績 前年同期比 前年同期比% ポジショニング 90,488 +33% 67,812 22,675 スマートインフラ 28,027 30,636 2,609 +9% 7,929 アイケア 41,360 49,289 +19% 売上高 その他 913 867 46 消去 △13,233 △14,538 △1,304 合計 124,834 156,790 31,955 +26% 7,248 (10.7%) 11,009 (12.2%) 3,761 +52% ポジショニング 4,405 (15.7%) 3,275 (10.7%) △26% △1,130 スマートインフラ 1,983 (4.8%) 3,329 (6.8%) 1,346 +68% アイケア 営業利益 (営業利益率) その他 △264 △320 \triangle 55 調整 △3,025 △3,320 △294 10,347 (8.3%) 13,974 (8.9%) +35% 3,626 合計 6

セグメント別の売上高・営業利益の実績となります。こちらは別スライドにて後ほど詳細をご説明します。



第3四半期累計期間の営業利益の増減益分析です。前年同期の営業利益は103億円で、当年度が140億円です。プラス37億円の内訳をスライドに示していますが、売上増および売上構成差でプラス95億円となりました。

金額が大きい項目は、固定費がマイナス 63 億円で、主に営業力強化として人件費が増えています。それ以外に、研究開発投資と販売活動費も増加しています。

さらに為替の影響として、前年同期と比べてドルが約 24 円、ユーロが約 10 円円安に振れたため、42 億円のプラスとなりました。

最後に、特殊要因として部材・物流費の上昇でマイナス 41 億円となりました。こちらは第 2 四半期まではマイナス 31 億円で、第 3 四半期に入ってかなり落ち着くと見ていたのですが、部材・物流費の高騰がネガティブ要因として継続している状況です。

I.2023年3月期第3四半期 決算報告

I-1. 2023年3月期第3四半期 決算報告

I-2. 事業別の状況



©2023 Topcon Corporation

Topcon for Juman Life 8

次に事業別の状況をご説明いたします。

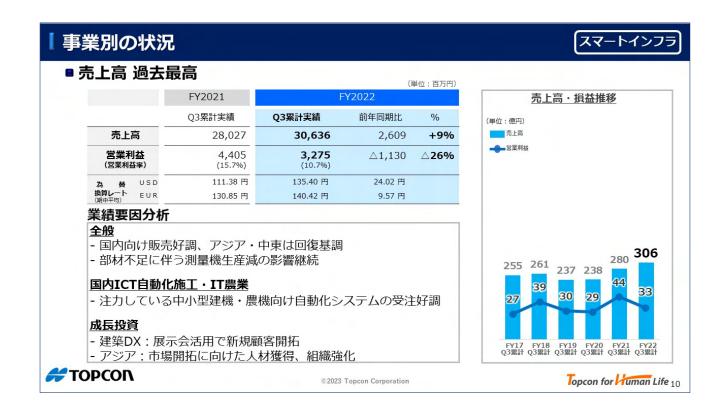
[事業別の状況 ポジショニ ■売上高・利益 過去最高 (単位:百万円) FY2021 FY2022 売上高・損益推移 905 Q3累計実績 Q3累計実績 前年同期比 % (単位:億円) 売上高 67,812 90,488 22,675 +33% 売上高 宣業利益 7,248 (10.7%) **11,009** (12.2%) 営業利益 3,761 +52% 678 為 替 USD 換算レート (期中平均) EUR 135.40 円 24.02 円 111.38 円 526 536 525 130.85 円 140.42 円 9.57 円 491 業績要因分析 110 全般 - 部材不足の影響も、北米の非住宅建設関連等の好調な需要を 取込み大幅増収増益 - 部材・物流費高騰の影響継続 45 45 IC<u>T自動化施工・IT農業</u> - アフターマーケット・OEM共に販売好調継続 測量機・レーザー機器 - 測量機は部材不足、レーザーは住宅投資減の影響で販売鈍化 FY17 FY18 FY19 FY20 FY21 FY22 Q3累計 Q3累計 Q3累計 Q3累計 Q3累計 Q3累計 # TOPCON ©2023 Topcon Corporation Topcon for Tuman Life o

まずポジショニング事業です。売上高は900億円を超え905億円となり、前年同期比33パーセントの増収となりました。営業利益は110億円を超えており、前年同期比52パーセントの増益で、大幅な増収増益となりました。営業利益率も12.2パーセントとなりました。

全般的に部材不足の影響が残っていますが、主に北米の非住宅建設関連の好調な需要を取り込むことができました。また、部材・物流費高騰の影響は継続しています。

主力の ICT 自動化施工と IT 農業は、アフターマーケット・OEM ともに好調な販売が継続しています。一方で、測量機は部材不足、レーザー機器は米国の住宅着工件数の落ち込みにも表れているように、住宅投資減の影響で販売が鈍化している状況です。

グラフの通り、第3四半期累計で営業利益が110億円まで積み上がっています。2021年度の1年間の営業利益が115億円でしたので、第3四半期の9ヶ月間でほぼ前年度並みの営業利益を稼ぐことができています。

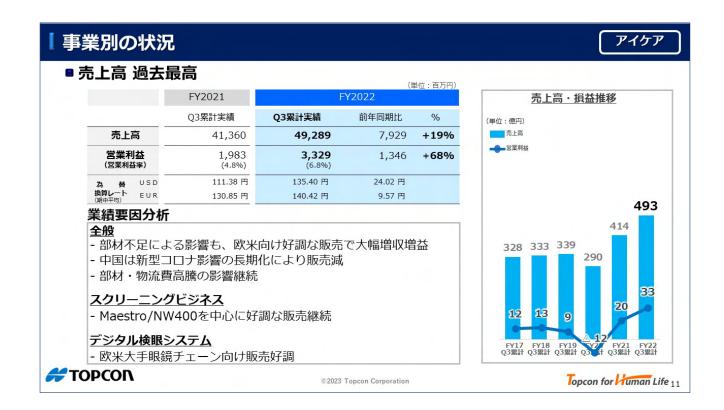


次にスマートインフラ事業です。先ほどのポジショニング事業の売上高・営業利益も第3四半期累計として過去最高でしたが、こちらも売上高が前年同期比9パーセント増収の306億3,600万円と、過去最高の売上高となりました。一方で、営業利益は32億7,500万円で、前年同期比26パーセントの減益です。

全般的に国内は好調で、アジア・中東も回復基調にあります。一方で、他事業と比較して特にスマートインフラ事業については部材不足影響が大きく、部材不足に伴う測量機の生産減の影響で利益率が下がりました。

国内の ICT 自動化施工・IT 農業は、昨今注力している中小型建機向けおよび農機向けの自動化システムが非常に好調で、受注残もかなり抱えている状況です。

成長投資を加速している建築 DX ビジネスについては、展示会も活用して新規顧客の開拓に取り組んでいます。アジアについては、市場開拓に向けて人材を多く採用しているところです。このような先行投資的な経費の増加も、減益要因の1つとなっています。



アイケア事業です。売上高は 492 億 8,900 万円で、前年同期比 79 億 2,900 万円と、19 パーセントの増収となりました。営業利益は 33 億 2,900 万円で、前年同期比 68 パーセントの増益です。 こちらも売上高は、第 3 四半期累計としては過去最高となりました。アイケア事業についても部材不足による影響が出ていますが、欧米向けの好調な販売で、大幅な増収増益となりました。

ただし、中国向けは新型コロナウイルスの影響で販売が落ちています。特に、第3四半期の3ヶ月間で大きく販売が落ちました。部材・物流費高騰の影響も継続しています。

注力しているスクリーニングビジネスは、フルオートの 3D OCT と眼底カメラを中心に好調な販売が継続しています。また、デジタル検眼システムは欧米の大手眼鏡チェーン店向けの好調な販売が継続しています。

アイケア事業も第3四半期累計で営業利益が33億2,900万円となりました。2021年度の1年間の営業利益が約32億円でしたので、9ヶ月間ですでに前年度を上回る営業利益を稼ぐことができました。

Ⅱ. 2023年3月期 通期見通し



©2023 Topcon Corporation

Topcon for Luman Life 12

通期見通しについてご説明します。

「FY2022 通期見通し

■ 上方修正

事業環境の見通し

- 米国での非住宅建設投資の増加を背景に、底堅い需要が継続
- 主要市場における建設、農業、医療各分野での人材不足による省力化ニーズの高まり

マクロ環境の見通し

- 部材不足及び価格高騰の影響継続
- 世界的な金融引締めによる景気後退リスク
- ロシア・ウクライナ戦争等の地政学リスク
- 中国経済の新型コロナ感染拡大による不透明感

第3四半期までの実績及び上記事業環境・マクロ環境の見通しを鑑み、以下の通り業績見通しを 見直す

新公表值

	旧公表値 (10/28)	新公表値 (1/30)	旧公表値比	前年度 (FY2021)	前年度比
売上高	2,000億円	2,050億円	+3%	1,764億円	+16%
営業利益	190億円	195億円	+3%	159億円	+23%
経常利益	180億円	180億円	-	148億円	+21%
純利益	125億円	125億円	-	107億円	+17%
配当	42円	42円	-	36円	+6円

#TOPCON

Q4為替前提: \$=130円/€=135円は変更なし

Topcon for Juman Life 13

今回、2022 年度の通期見通しを上方修正します。その背景についてですが、まず事業環境として、先ほどお伝えした米国での非住宅建設投資が活況で、底堅い需要が継続すると見ています。これは、いわゆる公共のインフラ投資と一般住宅以外の民間のビルや倉庫などの建設です。

また、主要市場において、建設、農業、医療分野での人材不足による省力化のニーズが増加しているため、当社が注力している各セグメントにおいて、省力化ソリューションの需要が高まっていると考えています。

一方で、マイナス要因としては第2四半期でご説明した内容と同じですが、部材不足や部材価格の 高騰が継続しているなど、不透明感のある環境が続いています。

先ほどお伝えした第3四半期までの実績とこのような環境を鑑み、売上高を2,050億円と50億円の上方修正、営業利益を195億円と5億円の上方修正を行うこととしました。経常利益、当期純利益、配当については変更ありません。

FY2022	2 通期見通し					
					(単位:百万円)	
		FY2021		FY2022		
		通期 実績	通期 見通し	前年度比 (%)	2022年 10月28日 公表値	
	売上高	176,421	205,000	+16%	200,000	
	営業利益 (営業利益率)	15,914 (9.0%)	19,500 (9.5%)	+23%	19,000 (9.5%)	
	経常利益	14,820	18,000	+21%	18,000	
	純利益	10,699	12,500	+17%	12,500	
	ROE	14.0%	14%		14%	
	配当	36円	42円	+6円	42円	
	為替換算レート USD (期中平均) EUR	112.86円 131.01円	(Q4前提) 130.00円 135.00円			
#TOPCON		©2023 T	Topcon Corporation		Ton	con for Luman Life

上方修正後の通期の業績見通しです。前年度比で 2 桁の増収増益を見込んでいます。第 4 四半期の 3 ヶ月間の為替の前提レートは、従来どおり 1 ドル 130 円、1 ユーロ 135 円としています。

			FY2021		FY2022	(単位:百万円)
			通期 実績	通期 見通し	前年度比 (%)	2022年 10月28日 公表値
		ポジショニング	96,692	118,000	+22%	113,000
		スマートインフラ	39,040	42,000	+8%	43,000
	売上高	アイケア	57,352	65,000	+13%	65,000
2	7.上向	その他	1,184	1,000		1,000
		消去	△17,848	△21,000		△22,000
		合計	176,421	205,000	+16%	200,000
		ポジショニング	11,548 (11.9%)	14,500 (12.3%)	+26%	13,500 (11.9%)
		スマートインフラ	5,821 (14.9%)	5,000 (11.9%)	△14%	5,500 (12.8%)
	常業利益 第利益率)	アイケア	3,203 (5.6%)	5,000 (7.7%)	+56%	5,000 (7.7%)
		その他	△365	△400		△400
		調整	△4,293	△4,600		△4,600
		合計	15,914 (9.0%)	19,500 (9.5%)	+23%	19,000 (9.5%)
TOPCON_			©2023 To	ppcon Corporation		Торсо

事業別の通期見通しです。変更点は、ポジショニング事業の売上高を前回公表の 1,130 億円に対して 1,180 億円と 50 億円、営業利益についても、前回公表値の 135 億円から 145 億円へと 10 億円の上方修正を行っています。

一方で、スマートインフラ事業については、先ほどお話した部材不足や住宅着工などの影響を鑑みて、営業利益を前回の公表値から 5 億円下方修正しています。トータルの営業利益は 5 億円上方修正し、195 億円を見込んでいます。



ここからはトピックスです。各事業についてご説明します。



まず、ポジショニング事業です。特に米国ではインフラ建設市場が堅調で活気があります。インフレや金利上昇の影響が不透明でしたが、現時点ではその影響は出ていません。

その一例として、スライド左側をご覧ください。今年1月に米国大型建設展「World of Concrete」がラスベガスで開催されました。写真のとおり活況で、昨年の入場者数を大幅に上回り、当社も昨年を大きく上回る受注を獲得しました。

右側は、3月に開催予定の3年に一度の「CONEXPO」という米国最大の建機展です。3年前の前回は、新型コロナウイルスの影響により途中で閉会してしまったのですが、今回は非常に活況な展示会になると期待しています。



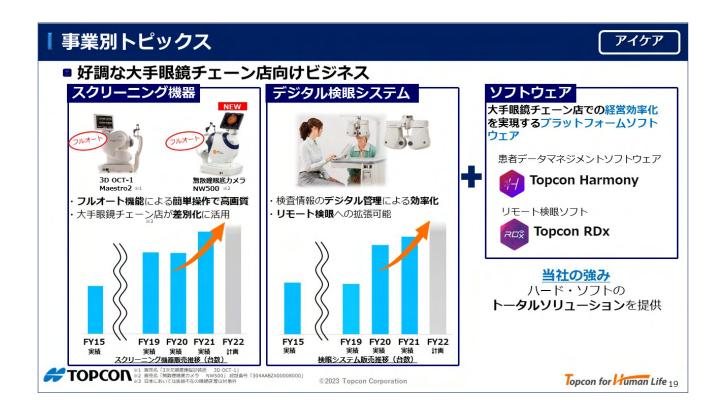
次にスマートインフラ事業です。今当社が力を入れている建築 DX ビジネスについてご紹介します。この成長事業への投資の一環として、昨年 12 月に東京ビッグサイトで開かれた大型建築展示会「JAPAN BUILD 2022」に出展しました。写真のとおり、こちらも多くの来場者で活気のある展示会となりました。

©2023 Topcon Corporation

TOPCON

この展示会で紹介したソリューションの一つをご紹介します。当社は建築向けの測量機およびソフトを販売していますが、こちらはスマートフォンのアプリで簡単に打ち出しできるという、生産性を非常に高めることができるソリューションで、ユーザーから好評を博しています。

Topcon for Tuman Life 18

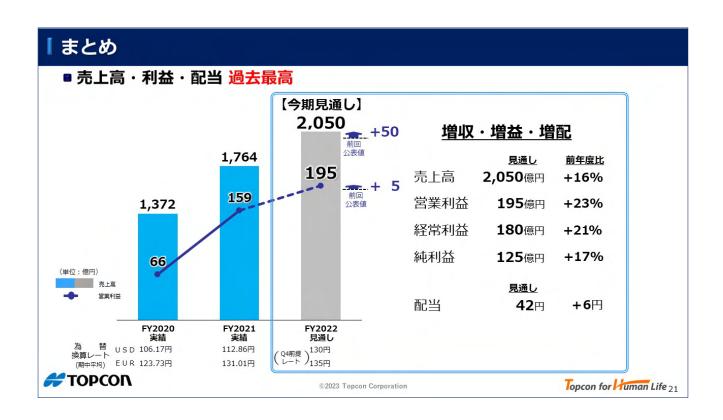


アイケア事業は、大手眼鏡チェーン店向けビジネスの一つであるスクリーニング機器の販売が、フルオートの 3D OCT と眼底カメラを中心として引き続き伸びています。

また、リモート検眼への拡張性を有するデジタル検眼システムの販売台数が、特に欧米を中心に伸 長しています。この検眼システムに加え、先行投資にかなり力を入れたプラットフォームソフトウェアがあることで、当社はハードとソフトのトータルソリューションを提供できます。これが当社の強みであり、眼鏡チェーン店からも受け入れられています。



最後にまとめです。



今回は業績見通しを上方修正、売上高 2,050 億円、営業利益 195 億円、当期純利益は 125 億円とし、売上、営業利益、各段階の利益、また配当について過去最高を見込んでいます。

以上、第3四半期決算報告、2023年3月期の通期見通しを報告いたしました。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答サマリー

<全社共通事項>

- Q. 増減益分析の通期の見通しを教えてほしい。
- A. 売上増・Mix が 90-100 億円のプラス、固定費が 60-70 億円のマイナス、為替が 45-50 億円 のプラス、部材物流費上昇が 50 億円弱のマイナスと見ている。
- Q. Q3 の固定費増加要因とセグメント別内訳を教えてほしい。また Q4 の見通しは?
- A. Q3 は売上増に伴い、各セグメントで増加。Q4 は昨年同期の売上が大きくその分販売活動費等が掛かっていたため、前年同期比で見ると大きな増加は見込んでいない。
- Q. 今回の上方修正は Q3 の実績上振れ分だけが反映されているとの理解で良いか。
- A. Q4 は事業環境は堅調さが持続する見込みだが、マクロ環境のリスク要因を加味して保守的に 見ている。
- 0. 各セグメントの受注トレンドに変化はあるか?
- A. 各セグメントとも大きな変化はない。受注残は9月末に比べると12月末は若干減ったが、 通常時に比べれば依然高水準。
- Q. 来年度は次期中期経営計画の初年度に当たると理解しているが、22 年度からの流れで 23 年度も増益基調が続くのか?
- A. ポジショニング・カンパニーとスマートインフラ事業は米国における非住宅建設投資が堅調、またアイケアもソリューション事業が堅調で、23 年度も底型い需要が継続すると見ている。また、中長期的な視点で先行投資は引き続き行うがバランスを取って実行する。このような観点から、来期減益となるような計画にはならないと考えるが、マクロ環境の先行き不透明感が拭えない状況が続くと見ている。
- O. 在庫が増加しているが、現在の水準は適正なのか。
- A. 在庫増は、部材不足に起因する生産遅延で、出荷がホールドとなっている完成品を含む仕掛品在庫の増加、一部部材の戦略的備蓄(前倒し購入)、および円安を含む価格高騰の3つの

ミックス要因によるもの。現状は適正よりは多めの水準ではあるが、不動在庫にはならず、 来期以降に過剰分は解消できると見ている。

<ポジショニング・カンパニー>

- Q. 住宅建設と非住宅建設向けの売上高比率及びそれぞれの増減率はどのようになっているのか。
- A. 住宅/非住宅建設向けで売上をトラックしている訳ではないので、イメージとなるが、概ね 住宅3に対して非住宅7という比率。第3四半期累計で住宅建設向けが2割程度落ちた一 方、非住宅建設向けが伸長しており、ポジショニング・カンパニー全体として売上が伸び た。

Q. 非住宅建設向けの Q4 見通しを教えてほしい。

A. 非住宅向けは Q2 に引き続き Q3 も需要は強かった。Q3 は通常季節性により需要が鈍化する時期だが、部材不足影響が一部緩和して受注残の一部が解消できたことも好調な要因の一つ。

Q. 展示会における顧客の投資マインド、米国インフラ投資雇用法の進捗はどうか?

A. インフラエ事関連と商業施設建築分野への投資マインドを特に強気に見ている顧客が多いようだ。道路や橋などのインフラ関連については、実際にプロジェクトに関連した発注が動き出していると聞いている。

<スマートインフラ事業>

Q. なぜ今回下方修正となったのか?

A. Q3 に部材不足の影響で想定以上に生産が落ちたことが主因。Q4 である程度回復すると見ているが、全ては挽回できない見込み。

<アイケア事業>

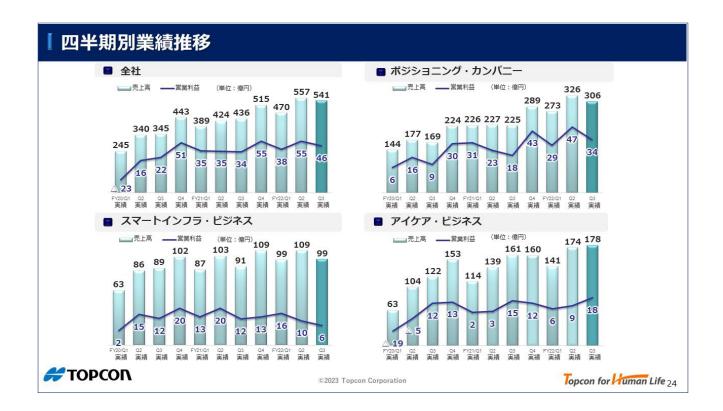
- Q. 米国の事業環境及び競合状況は?
- A. 大手眼鏡チェーンは景気が悪化するほど他社との競争から効率化を求められるという面もあり、引き続き好調。競合他社の数字は全て把握できていないが、負けていることはないと思う。
- Q. Q3 の 3 か月間の営業利益率が高くなっているがその要因を教えてほしい。 NW500 の貢献もあったのか。
- A. 為替の影響が大きかった。NW500 は Q3 への売上貢献は限定的、主力市場の米国では 12 月から販売を開始したが、欧州はまだ認証手続き中で販売を開始していない。

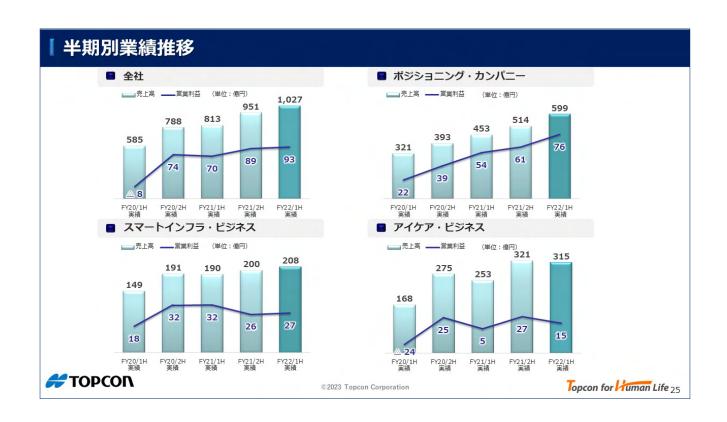
V. 参考資料

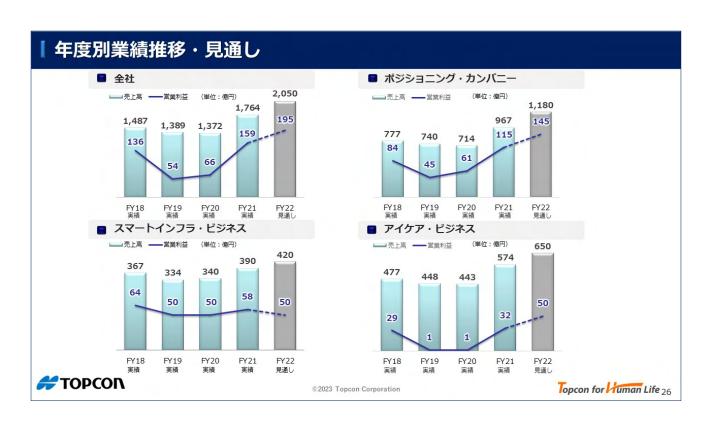


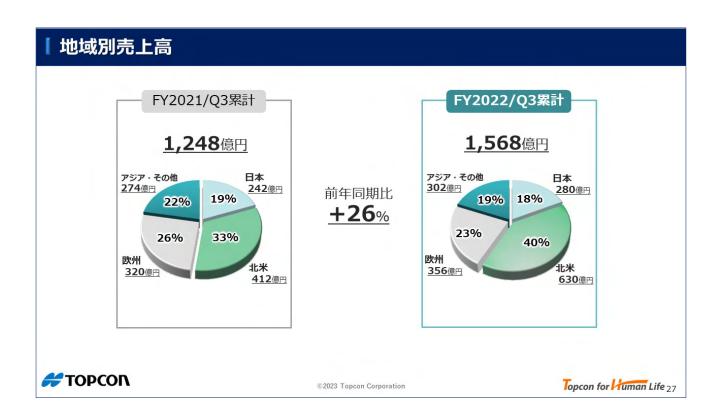
© 2023 Topcon Corporation

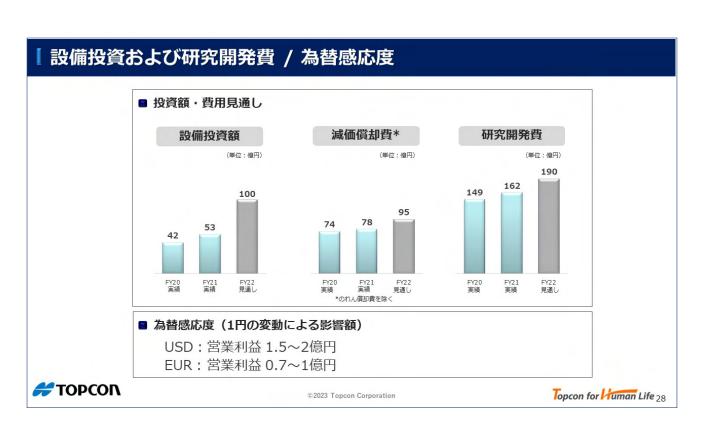
Topcon for Juman Life 23











■ ホームページ: https://www.topcon.co.jp/invest/library/integration/





■ URL: https://finance.logmi.jp/377643



非財務情報について

■ サステナビリティ関連の外部評価

2022 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

MSCI日本株女性活躍指数(WIN)

女性活躍推進法により開示される女性雇用 に関するデータに基づき、多面的に性別 多様性スコアを算出し、業種毎に同スコア の高い企業を選別するインデックスへ採用



TOPCON

■ ニュースリリース: https://www.topcon.co.jp/news/10361/



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index 各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス (ESG)の対応に優れた日本企業のパフオーマンスを反映するインデックスへ採用



■ ニュースリリース: https://www.topcon.co.jp/news/9527/



第4回日経SDGs経営調査

国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」への取り組みを格付けする調査において3年連続3つ星半を獲得



■ ニュースリリース: https://www.topcon.co.jp/topics/1087

©2023 Topcon Corporation

Topcon for Juman Life 32

■ WIN ニュースリリース : https://www.topcon.co.jp/news/10361/

■ FTSE ニュースリリース : https://www.topcon.co.jp/news/9527/

■ 日経 SDGs ニュースリリース: https://www.topcon.co.jp/topics/10872/



■ ホームページ: https://www.topcon.co.jp/sustainability/



